

令和6年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善 方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	(1)生徒の個性や創造性を伸ばし、意欲や探究心を高めるために、6年間の一貫した教育課程・学習環境を十分に意識したカリキュラムマネジメントに取り組む。 (2)個別最適な学び、主体的・対話的な学びや学習評価の方法を工夫するなど授業研究を推進する。 (3)表現コミュニケーション力、科学・論理的思考力、社会実践力の育成を図る教育活動として体験的な学習・探究的な学習の充実に組織的に取り組む。	(1)生徒の個性・創造性を伸ばし、自己や社会への認識を深め、意欲や探究心を高める、6年間の一貫したカリキュラムマネジメントを展開する。 (2)個別最適な学び、主体的・対話的で深い学びの授業研究を推進し、学習評価の方法を精査するほか、体験的な学習・探究的な学習を組織的に推進する。	(1)生徒が後期課程においても主体的な学びを維持できるように、前期課程の段階では、特に生徒の個性や創造性を伸ばし育む授業を実施する。そのための教科指導を体系的にまとめる。 (2)各教科で、生徒に身に付けさせたい能力を共有したうえで、評価方法を検討する。また、学び方については、講義型のみではなく、探究型のように答えが用意されていない学びも取り入れ、学び方の多様化をはかる。	(1)各教科で生徒に身に付けさせたい能力を体系的にまとめることができたか。 (2)評価が身に付けさせたい能力を見取るものになっているかを検討する。授業研究において、各教科の授業が多様な学び方の実践となっているか。					
2 ( 幼 児・児 童・) 生徒指導・支援	(1)6年間の発達段階をふまえ、主体的な課題解決を図り、生徒の特性や課題を見極め、多面的で組織的な生徒支援をおこなう。 (2)6年間の教育活動を通して、自主自律の精神のもと生活規律を確立させ、自他の生命を尊重する行動力にあふれる次世代のリーダーを育成する。	(1)生徒の特性に合わせた、多面的で組織的な生徒支援を展開する。 (2)6年間の教育環境を活かし、早期に生活規律を確立して自主性の伸長を図るとともに、自他の命を慈しむ心の醸成を目指す。	(1)-a 個人の成長段階の課題について必要に応じ地域の外部機関等と連携し、各自の抱える課題のサポート体制の強化を図る。 (1)-b 日頃から生徒理解に努め、報告・連絡・相談を密にし、全職員共通理解のもとに調和の取れた生徒指導に努める。 (2)-a 6年間の教育活動を通し、縦のつながりを意識しながら、学年を超えた仲間と課題解決をする場面で積極的に行動することで、リーダー性を育成する。 (2)-b 発達段階に応じて、行事における各学年での活動に工夫をすることで、仲間と協力することの大切さや自分の役割を果たす責任感を養うことで自他の生命を慈しむ心を醸成する。	(1)-a 個人の成長段階の課題について必要に応じ地域の外部機関等と連携し、各自の抱える課題のサポート体制の強化を図ることができたか。 (1)-b 全職員共通理解のもとに調和の取れた生徒指導 (学年経営) に努めたか。 (2)-a 6学年の縦のつながりを意識した活動ができたか。また、他の学年との活動を通して、課題解決を行いリーダー性を育成することができたか。 (2)-b 行事における各学年での活動により、発達段階に応じて自他を認めることができたか。また、次年度に向けて何を目指していくかを明確にできたか。					
3 進路指導・支援	(1)生徒一人ひとりが社会と関わり、自分の将来に向けて進路を選択し、その実現に向けて主体的・意欲的に取り組めるよう、外部機関との連携を推進しつつ多面的な支援をおこなう。	(1)外部機関との連携を積極的に推進し、自己や社会への認識を深めさせ、将来そこに自らをどう位置づけていくかについて、生徒が多面的に学ぶ	(1)-a 生徒が利用しやすい環境 (進路相談室) を整備するとともに、進路資料 (「進路のしおり」) の作成を迅速に行う。 (1)-b 時期に応じた進路情報を提供する。また外部ホームページの有効な活用について指導する。	(1)-a 生徒が利用しやすい進路相談室を整備できたか。「進路のしおり」を年度当初に発行できたか。 (1)-b 各学年で時期に応じた進路情報を提供できたか。外部の情報を適切に活用できるように指導できたか。					

視点	4年間の目標 (令和 年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善 方策等		成果と課題	改善方策等
		ことのできる支援を展開する。	(1)-c 計画的に模試を実施し、事後の効果的な指導に向けてオンラインシステムの活用を進める。 (1)-d 大学出張授業、進路講演会を実施し、生徒の知的探求心や進路実現への意欲の向上を図る。 (1)-e 総合的な学習の時間の実施形式を変更したため、毎時間の詳細な授業計画を立て、授業担当者間で共有をしていく。 (1)-f 総合的な探究の時間では、さらに外部機関連との連携を活発にしていける。また、同窓会等と連携し、連携のリストを作成する。	(1)-c 計画的に模試を実施できたか。オンラインシステムを活用して事後指導できたか。 (1)-d 大学出張授業、進路講演会を実施できたか。これらを通じて、生徒の知的探求心や進路実現への意欲の向上が図れたか。 (1)-e 総合的な学習の時間において、毎時間の詳細な授業計画を立て、授業担当者間で共有をすることができたか。 (1)-f 総合的な探究の時間において、外部機関連との連携を活発にし、同窓会等との連携リストを作成することができたか。					
4	地域等との協働  (1)地域との協働をさらに進めることで、生徒の地域社会を見つめる心を育み、地域社会に参画し、地域・保護者に信頼される学校づくりを推進する	(1)地域との協働を活性化させ、地域社会に貢献できる人物の育成を目指すとともに、学校と地域社会・保護者とのつながりをより強固なものにしていく。	(1)-a ホームページの運用について、学年・部活動により情報量に差がないよう、各学年の担当者が責任を持って発信し、部活動担当に呼びかけていく。また、ページごとに管轄するグループを明確にし、適時情報を更新していく。 (1)-b 引き続き他校との交流会や地域清掃では、計画段階から生徒主体で実施し、学校と地域のつながりを活性化させていく。 (1)-c 学校行事や生徒会活動での生徒の様子を、地域社会や保護者へ伝えつながりを強固なものとする。	(1)-a ホームページの運用について、学年・部活動により情報量に差がないよう、各学年の担当者が責任を持って発信し、部活動担当に呼びかけていく。また、ページごとに管轄するグループを明確にし、適時情報を更新していく。 (1)-b 交流会や地域清掃で、生徒会や委員会の生徒が計画段階から関わり、学校と地域のつながりを活性化できたか。 (1)-c 学校行事や生徒会活動に参加していただいたり、紹介をすることで生徒の様子をしっかりと伝えつながりを強固なものにできたか。					
5	学校管理 学校運営  (1)職員が主体的に学校運営に参画して「チーム学校」を構築し、事故不祥事防止を図る。また、働き方改革に基づき教員のワークライフバランスを推進し、学校の活力を維持する。 (2)施設の老朽化対策の推進など、安全で安心な学校づくりをさらに推進する。	(1)業務の精選や組織的な取組みを推進し、事故不祥事防止や持続可能な教育の充実を図る。 (2)実効的な視点から防災計画の整備を推進するとともに、安全安心で質の高い学習環境整備をおこなう。	(1)-a ICT の活用により会議の合理化を図り、職員間の情報共有と業務の精選を一層推進し同僚性を高めることにより、事故不祥事防止に努める。 (1)-b 実効的な観点から、防災マニュアルのスリム化、防災備品等の適正化、防災環境の整備等を図り、災害時に迅速で適切な対応ができるよう地域とも協働しながら整備を進める。また防災訓練等により、生徒・職員の防災意識や対応力の育成を図る。	(1)-a ICT の活用により会議の合理化を図り、職員間の情報共有と業務の精選を一層推進し同僚性を高めることにより、事故不祥事防止に努めることができたか。 (1)-b 実効的な観点から、防災マニュアルのスリム化、防災備品等の適正化、防災環境の整備等を図り、災害時に迅速で適切な対応ができるよう地域とも協働しながら整備を進め、防災訓練等により、生徒・職員の防災意識や対応力の育成を図ることができたか。					

